

旭ろうさい病院ニュース

病院情報誌 第 185 号

令和 6 年 4 月 1 日発行

発行所：旭ろうさい病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北 61 番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

旭ろうさい病院 脳神経外科の診療紹介

脳神経外科 主任部長 丹羽 裕史



平日午前は、基本的に毎日外来診療を行っています。平日の日勤帯での救急対応や平日受け入れでの入院診療を行っています。脳神経「外科」ですが、手術は行っていません。

外来では、脳卒中後の再発予防のための内服治療や生活指導、画像による経過観察などを行っており、頭部・顔面の外傷に対して、創の縫合や擦過傷治療を行っていますが原則、無剃毛・無剃髪で行い、擦過傷にはハイドロコロイド等の被覆材を使用して、シャワー浴や洗面が可能になるよう配慮しています。また、てんかんの管理・治療も行うとともに、脳腫瘍に対する未手術症例の経過観察や手術時期の判定、術後の経過観察および内服治療も行っています。更に未破裂脳動脈瘤の経過観察や頸部頸動脈狭窄症の内服治療・経過観察も行っています。

最近の状況としましては、予約・予約外あわせて 1 日数名から 15 名程度、待ち時間は初診の方で、問診票の記入が済み次第、あるいは提供いただいた画像を電子カルテに取り込み次第、診察できることもあります。1 時間以内程度の待ち時間となっています。

脳卒中や、頭部外傷といった、急を要する病態に対応するため、平日のみではありますが、極力、待ち時間の少ない診療を心がけています。

外来から、手術目的での他院への紹介は、年間 15 から 25 例となっています。そのなかで緊急手術症例は 3 から 5 例程度で、多くは脳腫瘍や未破裂脳動脈瘤などであり、転医先の外来を予約して、後日受診していただいております。また、悪化して手術を要する可能性があるかと判断して転送している症例（外傷による頭蓋内出血や急性期脳出血）は年間数例です。

入院では、脳出血・脳梗塞に対する急性期の入院保存的治療とリハビリテーションを主に行っており、必要に応じて、回復期リハビリテーション病院への橋渡しを行っています。また、脳震盪の入院治療も行っており、てんかん重積の入院も、年 1 例くらい対応しています。

医師 1 人体制のため夜間・休日の対応ができずご迷惑をおかけいたしますが、ご容赦を賜りますようお願いいたします。

核医学の世界

中央放射線部部長 福田 智哉

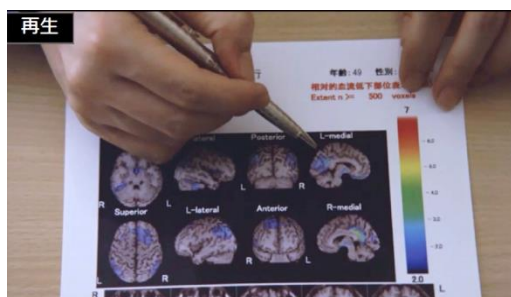
地域医療連携室のクリニック訪問では、いつもお邪魔させていただいております。CT、MRI の検査を依頼していただきありがとうございます。引き続きよろしくお願い申し上げます。



放射線部の検査の中には CT や MRI の他に、核医学検査もあります。CT や MRI と比べても検査数は少ないですが、必要な検査でもあります。本日は少し核医学の世界へご案内したいと思います。核医学の世界は、実は古くからあります。私が就職した 80 年代では、CT がそれほど多く検査できないこともあり、肝シンチや肺血流、骨シンチやガリウムシンチ、心プールシンチや甲状腺シンチなど、多岐にわたりおこなっていました。

今では CT や超音波検査に置き換わり、肝シンチや心プールシンチなどは皆無ですが、心筋 SPECT、骨シンチなどは威力を発揮しています。

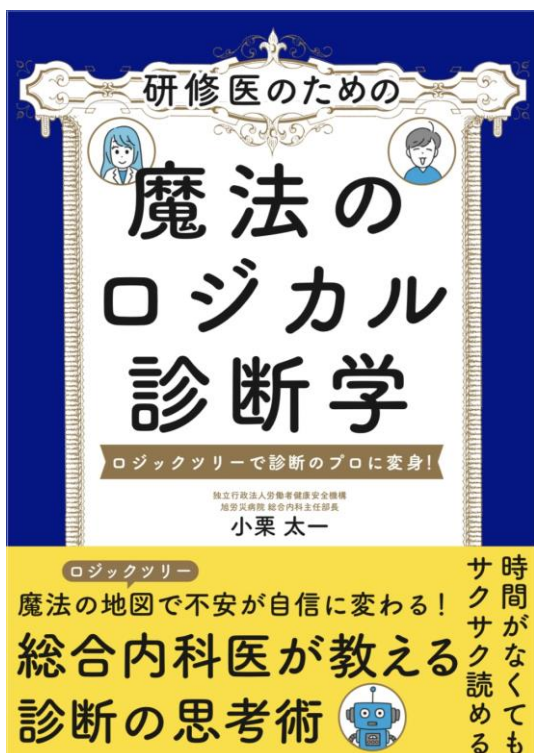
クリニックではそういった検査を行うことは少ないとは思いますが、ひとつ身近な検査が行えることをご存じでしょうか。現在の日本は車社会であり、高齢化に伴う運転への不安や、認知機能に対する生活の不安など、かかりつけ医の先生方は患者さんからお聞きになることや、気づかれることもあると思います。ちょっと古い話ですが、「明日の記憶」という映画がありました。主演は渡辺謙さんで、渡辺謙が演じる主人公が、若年性アルツハイマー病に襲われ、病魔と必死に戦う主人公を支える妻が樋口可南子さんでした。その際に若年性アルツハイマー病を確定させたシーンがありますが、それは核医学検査の「脳血流 SPECT」でした。



脳血流の画像を、Z スコアに基づき、標準の脳血流から低下を指摘したシーンがあります。映画では、MRI 検査を行い、海馬の萎縮を指摘して、核医学検査で確定したという内容でした。核医学検査は機能検査とも言われていることもあり、脳の機能を画像化したことを表現したシーンでもあります。当時では CT や MRI ではない珍しい検査が映画で表現されたと思いました。認知症に対して、少しでも不安をお持ちの患者さんがいらっしゃれば是非、核医学の「脳血流 SPECT」や MRI の検査を利用してください。また当院には認知症外来がありますので、紹介していただくことも可能です。これからも地域に根付いた画像診断に努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

お知らせ

当院、総合内科主任部長の小栗太一医師が本を上梓しましたのでお知らせします。



当院総合内科医師がおくる「研修医のための魔法のロジカル診断学」は、診療スキル向上をテーマとした思考術の指南書となっております。

曖昧な症状や複雑なケースにも取り組んできた著者の臨床経験と迅速かつ論理的アプローチが余すことなく記載され、この本を通じて確かなスキル向上へと導きます。

研修医に限らず、診断の腕を磨く方に贈る必読の書です。

著書：研修医のための魔法のロジカル診断学

出版社：じほう

発売日：2024年3月

著者プロフィール

小栗 太一(Taichi Oguri)

独立行政法人労働者健康安全機構 旭労災病院 総合内科主任部長

日本内科学会指導医、認定内科医、総合内科専門医

日本プライマリ・ケア連合学会指導医、プライマリ・ケア認定医

日本専門医機構総合診療領域 特任指導医

日本糖尿病学会糖尿病専門医

日本病院総合診療医学会認定医

産業医